

# 社会全体で子供を育てるためのマッチングアプリ

## 目 概要

「マッチングアプリ」のアイデアを応用し、少子化問題の解決に挑む。

少子化問題の大きな原因として、各家庭で育児に費やせるリソースの不足が挙げられる。とりわけ「人手」と「時間」の不足が大きな問題と考え、その解決が喫緊の課題と捉えた。

日本では少子高齢化が進行しており、リタイア世代の人口は年々増加している。そのリタイア世代の中には、育児や教育に意欲のある者が一定数、潜在的に存在するものと想定している。彼らと、マンパワー不足に悩む育児世代とを繋ぐことで、双方に恩恵をもたらせると考えた。それにより、マンパワー不足という直近の問題を解決するのみならず、子育ては社会全体で行うものだという意識を醸成することで、子供をもうけることや子供を育てることへの心理的障壁を下げ、少子化の解決にも繋がるものと予想している。

そのための手段として、現在流行している「マッチングアプリ」に着想を得たアイデアを提案する。

## 目 解決したい課題：アイデアで解決したい課題は何で、それをどうしたいですか？

- (1) 育児世代は、育児に費やせるリソース不足に悩む  
→とくに不足しており、かつ絶対的に必要な「人手」と「時間」を補う
- (2-1) 高齢化の進行により、社会に参画しないリタイア世代が年々増加している
- (2-2) リタイア世代のなかで育児や教育に意欲のある者が、それを実現できる手段がない  
→彼らが、育児や教育に参画できる仕組みを作る

## 目 解決方法：課題をどうやって解決しますか。骨子を記載ください。

子育てマッチングアプリの提供

- ・各種支援を必要とする育児世代と、誰かを支援したいリタイア世代を繋げるサービスを、アプリとして提供する。
- ・育児世代は、支援依頼をアプリ上で行い、支援者側はアプリ上でその依頼を確認し、都度対応する。

## 目 類似（独創性）：現在、このアイデアと類似する仕組みがあれば記載ください（検索してみてください）

- ・行政の社会福祉事業（ファミリーサポートなど）
- ・ベビーシッター

## 目 有意性：既に存在する類似の仕組みと比べて、どこが優れていますか（存在している場合のみ記載ください）

- (1) 依頼そのものの敷居が低い  
スマホで情報を登録することだけで支援依頼が完結
- (2) 軽い依頼でも可能  
ちょっとした買い物のような依頼でも可能
- (3) 支援依頼から、実際に支援されるまでが迅速  
支援依頼に対して「マッチング」さえすれば即対応が可能

## 実現方法：どのように実現するか、できるだけ具体的に記載ください（ファイル添付も可）

### 初期設定

- (1) アカウントを作成
- (2) 運営側による審査
- (3) アカウント登録完了

### アカウント登録完了後

- (1) 依頼側が、適当に選択した者に対して依頼事項を送信することで、支援を依頼する（複数に依頼可能）
- (2) 支援側は、それを確認し、自己判断で引き受けるか否か決める
- (3) 支援側は、引き受けた依頼事項を完了する

### その他

- ・ 支援側に対して「レビュー」を可能とすることで悪質な者を淘汰する
- ・ 対応した依頼内容や、その件数などに応じて、運営側からポイント（Tポイントなど、広く利用可能なもの）を授与される。

これにより、支援側のモチベーション維持と、支援者数の拡大に寄与。

## 課題・障壁：実現する上で課題となることは何ですか、それをどうやって克服しますか

- (1) 支援側・依頼側ともに選択肢が多い

- ・ 支援者は、依頼に対する対応能力に関して「自己紹介欄」に記入する。
- ・ 依頼者は、その自己紹介欄をみて、適切な者に依頼を行う。
- ・ 履歴などから、おすすめの支援者を初期表示する。

- (2) 支援者・依頼側ともに素性がわからない

- ・ 支援者としての登録に、アプリ運営側による「審査」を経ることで、素性が不安視される人物が関わることを防ぐ

## 期間・コスト：実現に必要な費用と期間はどれくらいでしょうか。初期リリースとそれ以降など記載ください

- (1) 開発期間：1年（即開発着手可能）
- (2) 開発費用：1000万円
- (3) 運営費用：広告収入や会費で賄う。

## 未来像：実現したとき、人々がどのように恩恵を受けて幸せになれるか、理想像をお書きください

- (1) 短期スパン

- ・ 育児のマンパワー不足問題を解決
- ・ リタイア世代を労働力として活用することで経済活性化

- (2) 長期スパン

- ・ 子育ては社会全体で行うものだという意識を醸成し、子供をもうけることや子供を育てることへの心理的障壁を下げる。これにより少子化の解決に寄与。
- ・ リタイア世代と現役世代の「支えられる側と支える側」という構図を撤廃。お互いに支えあう仕組みを作り、社会の閉塞感を解消。

【本アイデアに込めた想い】

核家族化や教育現場の退廃などに起因し、「子供は家庭内で育てるもの」という風潮が昨今ますます強くなっている。

これにより、子供を持つ親に対するプレッシャーは増し、また子供を持たない夫婦に対して子供を持つことの心理的障壁が高くなっている。

しかし、そもそも育児や教育は、親だけではなく、周囲の人間・学校・行政含め、「社会」全体で積極的に取り組むべきテーマではないだろうか。

なぜなら、将来の日本を担い、将来の自分を支えるのは現在の子供たちであるのだから。